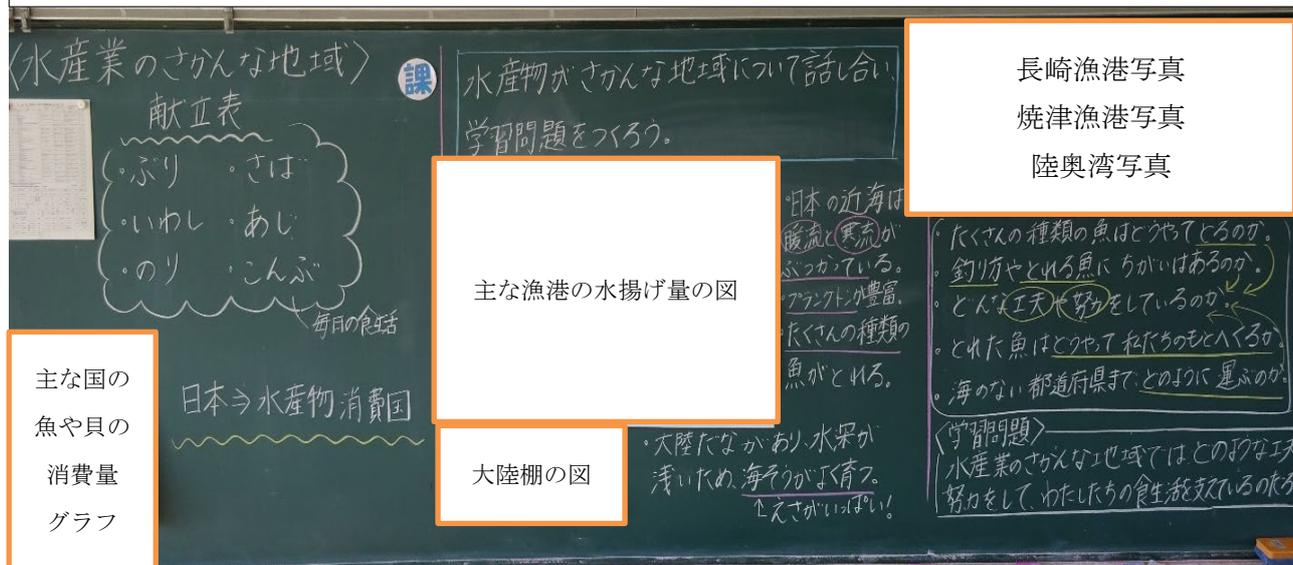


研究テーマ 資料の活用や話し合い活動の充実を通して、社会的事象の理解を深める指導の工夫
—第5学年 「水産業のさかんな地域」—

【提案】

社会科の学習では、様々な資料を活用して調べたりまとめたりする場面が多い。児童は、その中で、資料からよりたくさんの読み取ったり、資料を関連付けて新たな発見や疑問を見つけたりに課題がある。そこで、資料の活用を軸にし、様々な視点から物事を見たり、関連付けたりして社会的事象を理解できるようにしていった。また、友達との話し合いの中で、より広い視野で物事を考えたり新たな発見に結び付けたりして、社会的事象の理解を深められるよう目指した。



【学習問題をつくった時の板書】

1 実践のポイント

(1) 資料を関連付けて学習問題をつくったり、理解を深めたりする活動

学習問題をつくる場面では、自分たちの身近なものから気付きを生み出し、視野を広げ、資料を関連付けて考えさせていく。グラフ・図・写真を関連付け、疑問に思ったことや知りたいことを中心に話し合い、学習問題をつくっていく。資料を提示する際は、児童の思考の流れに合わせて順番に提示したり、比較する対象が明確になるように提示したりするなど、方法を工夫する。また、資料を読み取らせる際には、数値の変化が大きいところに注目させ、写真の細かいところにも目を向けられるように指導を行う。その中で、我が国の食料生産は、自然条件を生かして営まれていることや、国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることを理解できるようにする。また、生産性や品質を高めるよう努力したり輸送方法や販売方法を工夫したりして、良質な食料を消費地に届けるなど、食料生産を支えていることを理解できるようにする。

(2) 資料について友達と話し合い、様々な視点から社会的事象を捉える活動

まき網漁や一本釣り漁の写真資料を提示し、似ているところや違うところについて友達と話し合い、資料からより多くの情報を見つけられるようにしていく。また、日本近海の様子や生産量の変化のグラフ、地図を活用し、位置や時間の経過、人々のつながり等の社会的事象を理解できるようにしていく。その際に、消費者の立場になって考えたり、働く人の立場になって考えたりできるようにする。水揚げされた魚がどのように食卓へ届くのかについて考える際は、グループで資料を並び替え、どのような順序で作業が行われているのかを考える活動も行い、対話的な学び合いも実践していく。

2 実践の位置付け

(1) 小学校学習指導要領との関連

内容(2) 我が国の農業や水産業における食料生産について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるように指導する。

ア(ア) 我が国の食料生産は、自然条件を生かして営まれていることや、国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることを理解すること。

(イ) 食料生産に関わる人々は、生産性や品質を高めるよう努力したり輸送方法や販売方法を工夫したりして、良質な食料を消費地に届けるなど、食料生産を支えていることを理解すること。

(ウ) 地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめること。

イ(ア) 生産物の種類や分布、生産量の変化、輸入など外国との関わりなどに着目して、食料生産の概要を捉え、食料生産が国民生活に果たす役割を考え、表現すること。

(イ) 生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目して、食料生産に関わる人々の工夫や努力を捉え、その働きを考え、表現すること。

本小単元は、内容(2)我が国の農業や水産業における食料生産に関する内容で構成したものである。ここでは、漁師だけでなく、水産業に関連する漁業協働組合や水産試験場、食料輸送に携わる人々など「食料生産に関わる人々」を取り上げ、様々な人々の協力関係が食料生産を支える働きをしていることを扱うことが示されている。

内容の取扱い(2)のイに示された「これからの水産業などの発展について、自分の考えをまとめることができるよう配慮すること」については、単元末の「生かす」の段階で、児童が日本の水産業の課題を把握した上で生産者や消費者などの立場から多角的にこれからの水産業についての考えをもてるようにすることを意図している。

(2) 実践のポイントの学習評価との関連

・子どもをよりよく見取るための多様な評価方法の実施

多様な評価方法では、ワークシート、発言、ノート、作品を活用して評価を行った。資料を読み取らせたり、関連付けたりして考えを深めるために、児童の思考の流れに合わせたワークシートを作成した。話し合いに重きを置いて行った授業では、机間指導中の児童の発言を注意深く聞いたり、ノートの記録を細かく見たりするように心掛けた。新聞づくりでは、ポイントを絞って児童がまとめられるようにし、評価する対象を明確にしてまとめられるように指導した。

・努力を要する状況(C)の児童に対する指導、支援

学習の始めに、前時の学習をクイズ形式で復習したり、本時の課題や学習の流れを明確にしたりして安心して学習に取り組めるようにした。また、ノートに自分の考えをまとめる際には、ヒントカードを作成し、机間指導をしながら、アドバイスをを行った。

3 実践の内容

(1) 小単元の目標と評価規準

我が国の水産業について、生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目して、地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめることで、食料生産に関わる人々の工夫や努力を捉え、その働きを考え、表現することを通して、食料生産に関わる人々は、生産性や品質を高めるよう努力したり輸送方法を工夫したりして、良質な食料を消費地に届けるなど、食料生産を支えていることを理解できるようにするとともに、水産業の課題や解決への取組を理解できるようにする。また、水産業について、学習問題を主体的に調べ解決しようとする態度とともに、水産業の発展について願うなど我が国の将来を担う国民としての自覚を養う。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などについて地図帳や地球儀、各種の資料などで調べて、必要な情報を集め、読み取り、食料生産に関わる人々の工夫や努力を理解している。 ②調べたことを言葉や文などにまとめ、食料生産に関わる人々は、生産性や品質を高めるよう努力したり輸送方法や販売方法を工夫したりして、良質な食料を消費地に届けるなど、食料生産を支えていることを理解している。	①生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目して、問いを見出し、食料生産に関わる人々の工夫や努力について考え表現している。 ②水産業の課題に気付き、食料生産に関わる人々の働きを考えたり、学習したことを基に、消費者や生産者の立場などから多角的に考えたりして、適切に表現している。	①我が国の水産業における食料生産について、予想や学習計画を立て、学習を振り返ったり見直したりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。 ②学習したことを基によりよい社会を考え、学習したことを社会生活に生かそうとしている。

(2) 指導計画と評価計画(7時間)

※網掛けは、評価したことを記録に残す場面

○内の数字は時間を表す。

知：知識・技能 思：思考・判断・表現

< >内は評価の方法を表す。

態：主体的に学習に取り組む態度

	学習活動・学習内容	評価の観点・内容・方法	資料
つ か む	① 日本が水産物消費国であることや近海がよい漁場になっていることを本文や資料から調べ、気づいたことや疑問に思ったことから学習問題をつくる。 ・日本では、たくさんの魚介類を消費している。 ・日本の近海は海流が流れ、大陸棚が広がっていることで、よい漁場に恵まれている。 学習問題 水産業がさかんな地域では、どのような工夫をして、わたしたちの食生活を支えているのでしょうか。	思① 我が国の水産業の様子について水産業が盛んな代表的な地域の事例を調べるための、学習問題や予想、学習計画を考え表現している。 〈発言、ノート〉	・ 献立表 ・ 統計資料 ・ 潮の流れ ・ 写真資料
	実践のポイント(1)		

調 べ る	<p>② 漁港の人の話とまきあみ漁の写真から、まきあみ漁の様子や漁の工夫について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2隻の船が協力して魚をとっている。 ・ 漁群探知機 <p style="text-align: center;">実践のポイント(2)</p>	<p>態① 長崎漁港の特徴に関心を持ち、沖合漁業で行われるまき網における工夫や努力について意欲的に調べている。</p> <p style="text-align: right;">〈発言、ノート〉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ まき網漁の写真 ・ 漁群探知機の写真 ・ まき網漁のしくみの図
	<p>③ 作業の写真から、水あげされた魚が食卓に届くまでの流れについてわかったことを、時間の流れに沿ってノートにまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 漁港は、水産業にとって基地のような働きをしている。 	<p>知① 漁港には様々な機能があり、新鮮なうちに消費地へ届けるための様々な輸送の工夫がなされていることを理解している。</p> <p style="text-align: right;">〈発言、ノート〉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ せりの様子 ・ 漁港の様子 ・ 魚が運ばれる道
	<p>④ かつおの一本釣り漁法についてわかったことをノートにまとめ、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 釣り竿で一匹ずつ釣り上げる。 ・ 漁の工夫や鮮度を保つ工夫。 ・ かつおの動きに合わせて、漁船も遠くまで移動する。 <p style="text-align: center;">実践のポイント(2)</p>	<p>知② 資料を活用して、焼津漁港の水産業の特徴やかつお漁の漁法の違いやよさ、工夫していることを読み取りノートにまとめている。</p> <p style="text-align: right;">〈発言、ノート〉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ かつおの一本釣りの写真 ・ かつおが回遊する範囲の図
	<p>⑤ かつおの水あげの写真、冷凍庫の写真、水産加工団地の人の話から、水あげされたかつおを運ぶための工夫についてわかったことをノートにまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 水産物を冷凍したり、かまぼこなどに加工したりする施設がある。 	<p>知① 我が国は世界有数の水産国でありながら、漁業の変化や水産資源の減少などの問題を抱え、養殖業や栽培漁業、水産物の輸入が増えてきたことを理解している。〈発言、ノート〉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ かつおの水あげの様子 ・ 漁業別の生産量の変化のグラフ
	<p>⑥ ほたて貝の養殖の様子、ひらめの栽培漁業の様子の工夫や努力についてわかったことをノートにまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ かごで育てる。 ・ 生産量が安定するよう計画的に行われる。 	<p>知① つくり育てる漁業は生産量が安定するよう計画的に行われ、また資源管理などの様々な工夫や努力が行われていることを考え、ノートにまとめている。〈ノート〉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ほたて貝の養殖のしくみ ・ ひらめの資源管理の様子
ま と め る	<p>⑦ 我が国の水産業における食料生産についてわかったことや、考えたことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 世界有数の水産物消費国である日本にとって、水産業はなくてはならない産業である。 <p style="text-align: center;">学習問題の結論</p>	<p>思① 水産業にかかわる人々の様々な努力や工夫によって、国民の食生活が支えられていることを理解し、その発展を考えようとしている。〈ワークシート〉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 漁港地図 ・ 日本地図
<p>水産業にかかわる人たちは、自然環境に左右される漁や生産活動が安定して行えるようにいろいろな工夫や努力をして、国民の食生活を支えている。</p>			

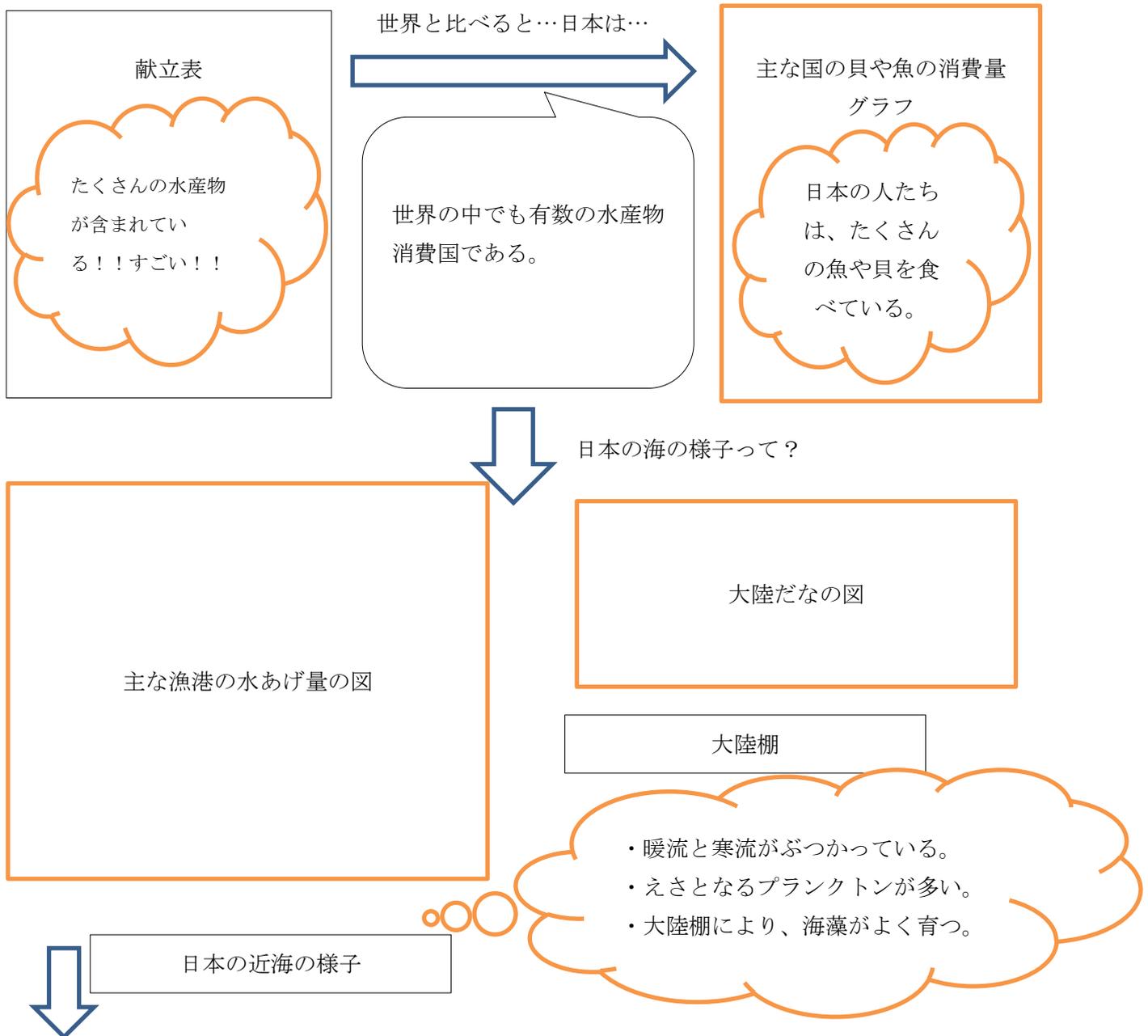
4 実践結果と考察

(1) 資料を関連付けて学習問題をつくったり、理解を深めたりする活動

学習問題をつくる場面では、給食の献立表を活用したことによって、自分が普段何気なく食べている食材のなかに、たくさんの水産物が含まれていることに気付くことができ、驚いている様子だった。そこから、世界の国と日本の水産物の消費量のグラフを見ることで、日本は世界の中でも有数の水産物消費国であることを確認することができた。児童は、どうしてそんなにいろいろな水産物をたくさん食べているのか疑問に思い、関心を持って学習に取り組むことができた。そこで、日本の近海の様子について日本地図等を利用し、海流の流れや海の様子について資料を提示し読み取れるようにした。そして、3種類の漁港の様子を提示したり、海のない県について触れたりした上で、これから知りたいことについて発表し合い、クラスで1つの学習問題を導き出していった。

このように、資料を提示する順番を工夫して児童が気付きを繋げられるようにしたり、グラフ・図・写真を関連付けて疑問に思ったことや知りたいことを中心に話し合わせたりすることで、学習問題をつくれるように工夫した。

【本時の資料の提示】



長崎漁港
写真

焼津漁港
写真

陸奥湾
写真

日本には海のない場所もあるけど、
水産業の盛んな地域って…？



- ・たくさんの種類の魚はどうやってとるのか。
- ・どれぐらいの量の魚が捕れるのかもっと詳しく知りたい。
- ・日本の海流や地形についてももう少し知りたい。
- ・捕れた魚はどうやってわたしたちのところへ届くのか。
- ・3つの漁港の様子が違うように見える。釣り方や捕れる魚に違いはあるのか。
- ・どんな、工夫や努力をしているのか。
- ・海と接していない県や地域までどのように運ぶのか。

単元を通して、思考をより深めるための、資料の活用に関する指導を行った。例えば、資料の読み取り方や見るポイントについての指導を行い、1つの資料から多くの情報を読み取ったり、いくつかの資料を関連付けて考えたりできるようにした。特に、まきあみ漁とかつおの一本釣りの写真を読み取るときには、船の大きさや形、働いている人の様子、使っている道具などに目を向けさせ、細かいところも読み取れるように指導を行った。また、漁業別の生産量の変化を見るグラフでは、200海里水域の図と関連付けて、なぜ遠洋・沖合漁業が減少しているのかについて考えさせることで資料を照らし合わせ、共通して読み取れることはないかを児童が主体的に考えることができた。

(2) 資料について友達と話し合い、様々な視点から社会的事象を捉える活動

まき網漁や一本釣り漁の写真資料を提示し、似ているところや違うところについて個人で考えた後に、友達と話し合い、資料からより多くの情報を見つけられるようにした（見るポイント等の指導も含め、児童から出た意見については(1)の中で記載）。自分一人では見つからなかった情報を資料から読み取ることができた。

水揚げされた魚がどのように食卓へ届くのかについて考える際は、グループで資料を並び替え、どのような順序で作業が行われているのかを考える活動を行った。自分の今までの経験や学んだ知識を生かして、友達に理由を言いながら資料を並び替える児童の姿を見ることができた。

5 研究の成果と今後の課題

〈成果〉

- ・児童が自分の疑問を明確にして、意欲的に学習問題をつくることができた。
- ・資料の読み取り方や見るポイントについて指導を行い、1つの資料から多くの情報を読み取り、いくつかの資料を関連付けて見られるような力が育った。
- ・グループによる友達との話し合いを充実させることで、資料をいろいろな見方で見たり、自分の考えに理由を付けて説明したりできる児童が増えた。

〈課題〉

- ・教科書、資料集の資料の扱い方がうまくいかなかった。(たくさんの資料の中で何を活用するか。)
- ・映像資料の活用ができなかった。
- ・社会にかかわるという面で、これからの日本の水産業について考えていくところが難しく感じた。水産業のために自分でできることを考えたり、海の環境を守ることを意識したりするという子どもの姿を目指したが、実際には学習したことの知識をまとめるので留まった児童が多かった。